

- 心情豊かな人
- 自ら学ぶ人
- 勤労を尊ぶ人
- よく考えて行動する人
- 国際社会に貢献する人

〒321-4511 栃木県真岡市高田1838
 TEL 0285-75-0008
 HP <http://www.moka-tcg.ed.jp/monojhsc/>
 ホームページで学校の様子を紹介しています。
 ぜひご覧ください。



真岡市立物部中学校
 学校だより
 令和7年度 第6号
 令和7年10月発行

校長室から

読書の秋「こころとあたまの、深呼吸。」

校長 柳 利道

「読書の秋」の由来は、中国の唐時代の詩人 韓愈（かんゆ）〔768～824年〕が読んだ漢詩が元になっていると言われています。

この漢詩から、「燈火（とうか）親しむべし」という言葉がやがて日本に伝わり、「秋の夜は灯りをともして読書をするのにふさわしい」というイメージになったと言われています。

<読書週間の歴史>

終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことはわかりありません。暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

（公益社団法人 読書推進運動協議会HPより）

さて、読書には、上の欄のような効果があると言われています。また、第79回の読書週間の標語は、「こころとあたまの、深呼吸。」です。学校でも、桜町祭終了後、読書週間を設定し、多様な考えや物語に触れる機会を設定し、豊かな学校生活につながるように指導したいと思います。

<読書の効果>-出典：Gakken-

- ① 会話力や文章力の向上
- ② ボキャブラリーが増える
- ③ 教養や知識が身につく
- ④ 想像力が豊かになる
- ⑤ アイデアが得られる
- ⑥ 色々な話題を話せる
- ⑦ ストレス解消



◇各種委員会の発表◇

今年度より、水曜日の放課後の時間に「集会」の時間を設定し、各種委員会の発表や生徒会によるイベントの時間を企画しています。

今回は、福祉委員会による福祉関係の発表、広報委員会によるゲームと生徒会誌の企画が発表されました。



福祉委員会



広報委員会

◇租税教室◇

9月26日(金)に、3年生を対象とした、「租税教室」が実施されました。現在、支払っている税金について、用途や種類について、詳しく説明を聞くことができました。生徒たちも直接生活に関わることもあるので、真剣に話を聞いていました。



◇都市新人各種大会◇

9月18日(木)、19日(金)に陸上競技、26日(金)、27日(土)に新人各種大会が開催されました。

陸上競技では、県大会に2名、卓球では、女子個人1名が3位で県大会に進出しました。また卓球1年男子シングルスでは、優勝を勝ち取りました。県大会には進めませんでした。野球部、バレーボール部も総合体育大会の時よりも成長の跡が見られる試合となりました。県大会に出場した選手たちの活躍に期待したいと思います。県大会は、陸上競技10月14日(火)、卓球女子個人18日(土)に開催されます。



特設陸上競技部



特設陸上競技部リレーメンバー



野球部



バレーボール部



卓球部(女子)シングルス3位



卓球部(男子)1年男子シングルス優勝

◇芳賀地区音楽祭◇

9月24日(水)に芳賀地区音楽祭が開催されました。吹奏楽部と特設合唱部による演奏が行われ、合奏の部、合奏の部ともに、惜しくも「銀賞」でした。しかし、いずれも素晴らしい演奏でした。



吹奏楽部



特設合唱部

本年度より、「各種たより」は、ホームページに掲載すると同時にeメッセージにて配信いたします。紙面での配布は、今年度は行いますが、来年度よりホームページ、eメッセージのみの配信といたしますのでご了承ください。